

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年10月19日（木） 午後6時から8時まで
場 所	仲町交流センター
出席人数	(1) 市 民 19人（うち市議2人） (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計24人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>(意見・質問) (仲町学区)</p> <p>これまでの検討や地域懇談会の中で、問題点もいろいろ出ていると思う。それに対する対応を示してからでないと、話し合いが先に進まない。どのように考えているか。</p> <p>(事務局)</p> <p>懸案は2つ認識している。</p> <p>一つは、統合されることになれば通学路が遠くなる。子どもたちの精神的・体力的な問題、安全性の問題等があると認識している。安全を最優先に無理なく登校できる範囲を考えている。</p> <p>もう一つは、地域との関係について。地域懇談会では、地域から学校がなくなると、学校と地域との結びつきが薄くなると指摘されている。</p> <p>安全を最優先に、無理なく通学できる範囲を考えている。それに伴う通学路の見直しや整備、地域での見守りへの協力などが懸案と考えている。</p> <p>また、それぞれの地域の活動は、これまでと変わらず続いていくと考えている。コミュニティの形をいきなり変えるようなことは考えていない。時間をかけて考えていく課題であると考えている。いずれにしても、庁内、地域との協議をしながら進めていきたい。</p> <p>(意見) (仲町学区)</p> <p>検討委員会の中の地域活動団体とは、どのようなものか。</p> <p>(事務局)</p> <p>地域活動団体とは、PTA連合会、コミュニティ推進協議会、連合民生委員児童委員協議会、青少年育成連合会、子ども会育成連合会、スポーツ少年団本部、ひたち生き生き百年塾推進本部である。</p> <p>(意見) (仲町学区)</p> <p>日立市は、前回の国体を契機に小学校単位でコミュニティを作った。仲町学区はとても活動しやすい。学校が統合されて地域が広がった場合、仲町に住んでいる人だけを対象とした限られた活動はしたくない。コミュニティを潰したくないと考えている。子どもたちは地域で育てていくものと考えている。</p>

(事務局)

御意見は承る。

(意見) (仲町学区)

仲町小、平沢中は、基本方針の基準を下回っている。統合の可能性がある地域として、地域の感度が上がっている。不安なので、いろいろ話に出ている。基本計画の内容はどのようなものになるのか。全体のロードマップが分からないので明確にしてほしい。

(事務局)

具体的な計画の内容は、まだ検討していない。皆さんには早く知りたいという気持ちはあると思うが、計画策定後、(地域との協議などが) 実際に動き出すまでにも1～3年程度かかると認識している。適正配置計画が(統廃合などの)一定の形を見るまでには、5～10年程度はかかると考えている。

(教育部長)

基本計画には、「統廃合する、学区を見直す」などは書き込んでいく。地域によって違いがあるので一概には言えないが、1つの中学校に小学校が2つとか、小学校から2つの中学校へ分かれて進学しないようにといったことも踏まえて考えていこうとしている。

(意見) (仲町学区)

全ての家庭に「良い」というものはできないと思う。今後、子どもが増えるということは考えられないのに、5～10年というのは、曖昧だし問題の先送りではないか。

(教育部長)

計画の中には、計画期間を明記する。地域とのやり取りに、どのくらいの時間が必要か読めないところもある。

(意見) (仲町学区)

コミュニティのことは、10年考えていけば答えが出るというものではないだろう。

(教育部長)

相当の議論が必要だろうと思う。コミュニティの担当部では検討を始めている。人口が減少していくのだから、コミュニティの活動についても、いずれは、学校と同じ問題が出てくる。

今回の計画を作ることが問題提起になる。学校の問題は、検討を始めないと手遅れになる。「検討しておけばよかった」とはしたくない。

(質問) (仲町学区)

1クラスは何人で考えているのか。

(事務局)

国・県の基準で考えている。茨城県では、小学1、2年生は35人、小学3年生以上は40人。

(教育部長)

実際には、35人の学級はあまりない。学級が分かれて20数人の学級が多い。36人になれば2学級になるし、41人になれば20人、21人の2学級になる。

(質問) (仲町学区)

25人にする考えはないか。子どもは増えないから、学級を増やすには、そのようなことも考えられる。

(教育部長)

国・県の基準で考える。教員の配置は県で行っており、人件費も国と県。独自に25人にして1学級増やした分の経費(教員の人件費)を全て市で賄えばできるが、現実的には難しい。

(事務局)

教員の配置は、学級数が基準になっている。

日立市では、昨年度から独自の教員配置を行っている。特別支援学級の児童と一緒に学習するとき35人を超える学級には非常勤講師を配置して、1つの学級を2人の教員でみる事業(*)を昨年度から始めた。配置できる学級に(人数の)制約はあるが、教員の目が届くように配慮はしている。

(*)「学級」には、通常の学級と特別支援学級の2種類があり、児童生徒はどちらかの学級に在籍することになっている。通常の学級の基準(35人、40人)には特別支援学級在籍の児童生徒は含まれないため、日立市では、特別支援学級に在籍する児童生徒が通常の学級の活動(授業や行事)に参加することで35人を超える学級に非常勤講師を配置し、2人の教員で対応している。

(質問) (仲町学区)

統合されて学校が遠くなるということであれば、小中一貫にするという考えはあるか。子どもの人数は増えないが、同じ場所にいれば違うのではないか。

(事務局)

考えてはいる。できる地域については検討しているが、小中一貫にしたからといって、子どもの数や学級が増えるわけではない。規模としては、1つの中学校に2~3の小学校から進学する程度が理想だろう。学区ごとに検討していくことになると思う。学校が学区の中央にある訳ではないので、通学距離の違いは、現在でもある。

(質問) (仲町学区)

「2学級」、「3学級」というのは、マストか。必ず、それに合わせていくのか。

(教育部長)

そうではない。強い反対を押し切って進めることはできない。地域によって検討が必要だと考えている。子どもの数が数人になるまで、そのままでもいいかという、それも悩ましい。

(意見) (仲町学区)

今後の5~10年で、統合が決まるわけではないということだが、人間関係が作れるように、中学校はもっと大きいところに行かせたいと思っている。この地区が良い地区であることは分かっているが、親子で話し合えないのか。

(事務局)

説明不足で申し訳なかった。5～10年の間、動きがないということではない。

(教育長)

保護者の皆さんが不安に思うことを伺いたい。皆さんの考えや不安を聞かせていただければ、その思いに寄り添った計画が作れるのではないかと思う。

(意見) (仲町学区)

せめてクラス替えができる2学級はあったほうがよい。進級した時に心機一転という気持ちになれる。現在は、変わるのは担任の先生くらいで、顔ぶれが変わらない。子どもには友だちづきあいができるように育ててほしい。仲町学区が良いところだと分かっているが、少子化なので仕方がない。どうしたらいいのか不安。うちの子どものクラスには女の子が4人しかいない。バランスが悪い。統合の話が出てくるのは自然な流れだと思う。

(意見) (仲町学区)

登下校の見守りをしていて子どもたちと話す機会がある。「近いから中学校は平沢中に行きたい。でも、野球が強いから部活動は駒王中でやりたい。部活だけ駒王中でやることはできないか。」子どもなりに考えている。

(事務局)

部活動を理由に学校を変更することはできる。子どもの希望を優先するように文科省でも認めているが、部活動だけ違う学校でということはない。

(質問) (仲町学区)

もっと広域に、3～4校を統合して、スクールバスで通学させるようなことも進めてもいいのではないか。今後も減っていくから、今のうちに広域に統合してもいい。

(事務局)

スクールバスにもメリット・デメリットがあり、デメリットとしては、子どもが運動不足になると言われている。また、日立市の状況を見ると、(渋滞がひどく)定時運行が難しい。基本的には歩いて通うことが良いと考えているので、始めからスクールバスを使うことは考えていない。

県内には、広く統合してスクールバスを複数運行させている例はある。

(意見) (仲町学区)

小学生には体力差がある。小学1年生の場合は、歩ける範囲となると限定されてしまう。

(教育長)

歩ける範囲は目安としたい。地区によっていろいろな事情もあるから、いろいろ伺っていききたい。

(意見) (仲町学区)

歩ける範囲で考えたら、仲町小の子どもたちは2つの学校に分かれて通うことになるのではないか。

(教育部長)

あり得ることと思う。地域によって事情が異なるので、そのようなこと

も含めて、学区の線引きは考えていきたい。

(意見) (仲町学区)

小学校がなくなるとコミュニティは困る。検討委員会の検討に任せるが、人口が少なくなるほどコミュニティは必要になると思う。

(教育部長)

個人的な意見だが、将来的には、コミュニティ自体も変わらざるを得ないだろう。活動しやすい形も変わり、小学校と同じ範囲ではないかもしれない。これまでも、変化しながら、その都度の不都合を解決してきたと思う。

(意見) (仲町学区)

コミュニティでは、高齢者に対してもいろいろな活動をしている。小学校が一緒になったから、あちらに行って混ざればいいのかというと、そうではない。高齢者は増えるから、活動地域は離れられない。コミュニティは小学生だけのものではない。小学校単位で動くことだけを考えると、別の問題が出てくる。場所、箱物（交流センター）があるので難しい。

(教育部長)

活動しやすい形として、旧学区として活動することもあるだろう。考える時期に来ていると思っている。地域ごとにも変わるのかもしれない。

(意見) (仲町学区)

中学校について心配している。5～10年と聞いてがっかりした。中学生は友人関係を築く時期。高校に行って5クラスとかあるときに、中学校が1学級では不安だ。5、6年生になったら（進学先に）悩むと思う。

保護者としては、（適正配置の順番を）どのような基準で選んでいくのか気になる。

(意見) (仲町学区)

平沢中はプレハブ校舎になっているが、統廃合の方向性によっては、このまま、プレハブのままということもあるのか。

(事務局)

平沢中は、古い校舎の耐震性が十分でないということで、仮設校舎を建て、そこで生活していただいている。新しい校舎は安全なので使っている。

このままの状態によいとは考えていないので、仮設校舎のある学校については、早く方向性を出していきたい。

(教育長)

まずは耐震化を優先した。その後、全校の耐震診断を行ったが、坂本中、平沢中は思いの外、耐震性が低かった。まずは、安全確保としてプレハブ校舎とした。このままでよいとは思っていない。

(意見) (仲町学区)

仲町小の体育館のトイレを改修してほしい。地盤沈下で段差が生じて危険だし、洋式にならないと高齢者が使えない。小学校の体育館は、地域行事で使用することが多い。避難所にもなっているが、東日本大震災の時も和式トイレを使えない人が多かった。自宅に戻る人もいた。

(教育長)

耐震化を優先させていただいた。校舎のトイレ改修は順次行っている。

お話は承ったので、予算要求はしていきたい。

(意見) (仲町学区)

仲町小と中小路小を統合しても、基準の規模を確保できない。すぐに減っていく。仲町小と中小路小では、範囲が広くなり、歩いて通うことは難しいのではないかと。スクールバスが必要だと思う。

(質問) (中小路学区)

今後、耐震補強を要する学校はあるか。また、学校の耐用年数はあるのか、耐用年数を超過している学校はあるか。

(教育部長)

耐震補強が必要な学校は、平沢中を含め3校ある。学校の耐用年数は、補助の関係から60年程度といわれているが、実際には40年くらいで建替などの検討をしている。

(質問) (中小路学区)

40年を超えている学校はあるか。

(教育長)

建築年が古い学校もあるが、3校以外は耐震補強をしているので問題ない。

(教育部長)

老朽化の課題は、学校ごとに生じているという認識は持っている。

以上